

社会貢献

OKIグループは、社会貢献活動の基本理念「良き企業市民として真に豊かな社会の実現に向けて、考え、行動し、共感を得る社会貢献活動を実践する。」に則り、寄付や地域貢献、社員のボランティア活動支援などを組織的に推進しています。より幅広い活動を行うため、各種のNGO/NPOと広く交流・協働し、国内外での活動を強化しています。

東日本大震災被災地への継続的な復興支援活動

OKIグループは東日本大震災の被災地復興のために、継続的な支援活動を実施しています。このうち復興支援ボランティア活動については、2011年度から継続している宮城県七ヶ浜町での活動に加え、2013年度からはグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンが主催する「東日本大震災復興コレクティブアクション」に参加し、宮城県亶理町に社員ボランティアを派遣して、同町の防潮林再生をめざす「わたりグリーンベルトプロジェクト」を支援しています。2014年度は両活動に、延べ19名のOKIグループ社員が参加しました。



七ヶ浜町での活動(農地整備)

2014年度に実施した支援活動

- ・社員による復興支援ボランティア活動(宮城県七ヶ浜町、亶理町)
- ・「OKI蔵文化彩」において東北物産展を開催(福島県、宮城県)
- ・公益社団法人日本フィランソロピー協会「被災地の子どもたちに絵本を届けるクリスマスプロジェクト」に参加
- ・社員食堂で「東北復興応援イベント:食べて応援しよう!」を実施

「夏休みものづくり企業見学ツアー」を開催

プリンター事業を担うOKIデータの生産拠点OKIデータMESは、2014年7月、地元である福島市内の小学2年生～中学2年生の12名と保護者を招いて「夏休みものづくり企業見学ツアー」を開催しました。これは子どもたちにもものづくりへの関心を深めてもらうことを目的に、「ふくしまのものづくり『企業・技・こころ』に直接触れる事業」を推進する福島市との共催で実施したものです。参加者は、社員食堂での昼食、プリンター製造工程の見学のあと、ものづくり体験として電動ドライバーを使ったねじ締めやプリンターのトナー交換、オリジナルの名刺作成などに挑戦しました。



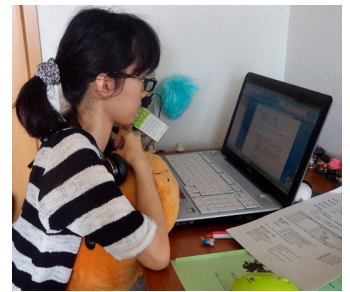
電動ドライバーを使ったねじ締め体験

遠隔職場実習を10年連続で実施

OKIグループの特例子会社であるOKIワークウェルは、障がい

者在宅雇用の経験を活かし、2004年に日本初の試みとして、特別支援学校に通う重度障がいのある生徒に対する遠隔職場実習を行いました。以後10年間にわたり毎年実習を行っており、これまで全国26校62人の生徒が受講しました(2015年6月現在)。

2014年7月に実施した実習では、東京都立鹿本学園の高等部3年生の生徒が電話と電子メールを利用して指導者とコミュニケーションを取りながら、パソコンでの作業を行いました。生徒側はインターネットにつながるパソコン環境があれば、学校や自宅にしながら職場実習を受けられます。また、指導者自身がOKIワークウェルで在宅勤務する障がい者であることが、生徒のモチベーション向上につながっています。



自宅で職場実習を受講する生徒

寄付型ボランティア「OKI愛の100円募金」

OKIグループは、活動の主旨に賛同するグループ会社(2015年4月時点で30社)の役員・社員から毎月100円の募金を集める「OKI愛の100円募金」により、ボランティア団体の支援などを実施しています。支援対象のひとつで、ラオスの教育環境向上に取り組む特定非営利活動法人「ラオスのこども」は、2015年2月、「100円募金」の支援により、ラオスのチャムパサック県にあるボンサイ中等学校(生徒数2,020名)に学校図書室を開設しました。



真新しい学校図書室



VOICE 特定非営利活動法人ラオスのこども 代表
チャンタソン インタヴォン様

「ラオスのこども」では、これまで約270の学校図書室を開設してきましたが、中等学校にはまだ図書室がない学校が多く、図書室を利用したことのない教員も多いのが実情です。ボンサイ中等学校の図書室開設にあたっては、国立図書館のスタッフが講師となって、8名の教員に図書室の運営についてのセミナーを実施しました。引き続き、運営の支援や図書補充をしていきます。